



2026年 8 月 14 日

各 位

会 社 名 株式会社ブリーチ
代表者名 代表取締役社長 大平 啓介
(コード：9162、東証グロース市場)
問合せ先 取締役 C F O 小西 勲
(TEL. 03-6265-8346)

連結業績の前期実績との差異に関するお知らせ

当社は、2026年 6 月期（2025年 7 月 1 日～2026年 6 月 30 日）の連結業績につきまして、前期実績値と当期実績値との対比において下記のとおり差異が生じましたので、お知らせいたします。なお、当社グループは、広告関連法令の改正や広告媒体におけるルールの変更、インターネット広告単価の変動等に加え、新規商材の収益化時期や事業ポートフォリオの変化が当社グループの業績に与える影響を現時点で合理的に予測することが困難であるため、業績予想の開示を行っておりません。そのため、前期実績値との比較によりお知らせするものであります。

1. 2026年 6 月期通期連結業績値と前期実績値の差異（2025年 7 月 1 日～2026年 6 月 30 日）

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	親会社株主に帰属 する当期純利益 (百万円)	1 株当たり 当期純利益 (円)
前期実績 (A)	17,160	436	433	303	11.90
当期実績 (B)	17,179	△330	△331	△293	△11.43
増減額 (B－A)	19	△767	△764	△597	
増減率 (%)	0.1	—	—	—	

(注) 増減率は、当期実績が損失となった項目については記載しておりません。また、1 株当たり当期純利益の増減額・増減率は、利益と損失で符号が異なるため記載しておりません。

2. 差異の理由

当連結会計年度の売上高は、レベニューシェア型統合マーケティング事業における新規商材開拓や、新規事業におけるJOVSブランドの新商品「Dora Scroll」のオンライン販売支援体制構築等により、17,179百万円（前期比0.1%増）となりました。

一方、利益面におきましては、収益基盤の強化を目的に、マーケター・セールス人材の採用・育成や新規商材・ジャンルへの先行的な広告投資を実施した結果、売上原価、販売費及び一般管理費が増加いたしました。これにより、営業損失330百万円（前期は営業利益436百万円）、経常損失331百万円（前期は経常利益433百万円）、親会社株主に帰属する当期純損失293百万円（前期は親会社株主に帰属する当期純利益303百万円）となりました。

なお、先行投資により商材数は79商材（当第 3 四半期：66商材）へ拡大し、当第 4 四半期にはROASおよび広告利益が改善いたしました。今後は拡充した組織体制を活かし、投資フェーズから収益拡大フェーズへの移行を進めてまいります。

この結果、上記のとおり前期実績値との間に差異が生じております。詳細につきましては、本日（2026年 8 月 14 日）公表の「2026年 6 月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」をご参照ください。

以 上